事例 11

修了者を特養等の施設に配置することで、入所者が病院に入院する事例が減少

医療法人会大誠会（群馬県沼田市）

特養

慢性期

法人グループ各施設病床数・医師数	病院99床（障害者病床49床、回リハ病床50床）：常勤医師5名 老健100床、特養182床(2カ所):常勤医師換算0.2人～1.4人	**看護師数**	116名（法人グループ内）
		特定行為研修の修了者数	７名（法人グループ内の特養、訪問看護、療養通所、老健等で活動）

本事例のポイント

- ✓ 医師が常駐していない特養等の施設で、医師が不在でも、手順書の包括指示によって医療行為が提供されるようになった。
- ✓ 臨床推論を身につけた修了者の適切なアセスメントにより、施設から病院に入院する入所者が減少し療養経過と医療経済に好影響をもたらしている。

修了者の活動を推進した医師をご紹介

田中医師

修了者の活動の様子

田中志子 医師　(理事長)

- ✓ 法人のグループ施設において、組織的に特養等の施設における修了者の育成・活動を推進している。

田中医師の取組

- ✓ 看護師のアセスメントや実践に、臨床推論の考え方を含められるとして、組織的に特定行為研修受講をすすめた。
- ✓ 研修受講にあたって組織内の理解を得るには、医師の理解が重要と考え、法人グループ医師に特定行為研修の理解が得られるよう働きかけた。
- ✓ 組織にあった育成の方針、ルールを考え、計画的に育成した。

修了者と協働した所感

特定行為研修によって修了者が臨床推論をはじめとする高度な知識、実践力を得ることができた。医師と看護師の相互理解が進むことにより、チーム医療の力と質が向上し、入所者の治療経過に好影響を与えていると思う。

修了者がいる効果

- **医師が不在でも、感染や病状悪化の兆候を的確に捉え、早期対応による悪化予防に貢献**

医師不在でもタイムリーな対応が可能

- ✓ 特養等の施設において医師が不在でも、修了者が医療行為をタイムリーに提供できる。
- ✓ 修了者は医師が求める情報を明確に報告できるため、円滑に診療に繋ぐことができる。

効果的な悪化予防で医師・職員の業務負担が軽減

- ✓ 修了者が感染や症状悪化の兆候を早期から的確に捉えることにより、予防的介入が実現し、入所者の満足向上に加えて医師・職員の業務負担軽減に繋がった。

- **介護職員等の多職種にも好影響。施設職員全体の能力が底上げした**

- ✓ 共働する介護職員も修了者の臨床推論等の実践的な能力に影響を受けて、入所者の状況を把握できるように意識が向上した。入所者の異常に気がつくようになった。

事例11

修了者へのタスク・シフト／シェア内容

■ 手順書に基づき、修了者配置前よりも迅速に医療行為を提供

- 特養等の施設における、脱水や感染の兆候がある入所者に対する薬剤の臨時投与を行い重症化を予防している。
- 特養等の施設や在宅で褥瘡の壊死組織除去が必要な患者の処置を医師に報告しながらすすめている。
- 病状が安定している自宅（訪問看護）やサ高住等に居住する患者の気管カニューレの交換を実施している。また、衛生物品等の準備に関しても相談に応じる。

修了者が行う処置・内容

- 気管カニューレの交換
- 脱水症状に対する輸液による補正
- 褥瘡又は慢性損傷の治療における血流のない壊死組織の除去
- 中心静脈カテーテルの抜去
- インスリンの投与量の調整
- 抗精神病薬の臨時の投与
- 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入　　／等

取組を進める上でのポイント

■ 組織として特定行為研修修了者の育成方針を明確に示し、周知する。

組織が特定行為研修修了者を育成する方針として「自立・主体性」「疾患への対応」「予後予測」「コスト管理」「活動の場の拡大」の５つを示した。そのことにより修了者と医師・多職種の双方が役割認識をもち協働することができている。

■ 修了者ができることや得意なことを周知し、医師や多職種からのコンサルテーションを促す。

修了者が特養等の施設で活躍できるように、多職種・他部門の職員に対し誰が修了者であるのか周知し、修了者への積極的な相談を実施して医学的な知識を学んでほしいということを組織的にアプローチしている。

■ 受講中から修了後の活動までの一連を組織で支援する。

臨床推論等の理解を深めることができるよう受講中に医師との学習会の場を設けている。また研修修了直後の修了者に対する知識・技術のフォローアップ体制として、先輩修了者のメンターを配置し、医師と一緒に特定行為前後でブリーフィングとフィードバックのプロセスを持っている。

修了者と協働する仕組みを構築した過程

背景

2019年

- 特養は病院や老健と違って基本的には医師が常駐していない。在宅と同様に看護師の観察が医師の仕事を大きく助け、チームの力となると考えた。
- 医師がすぐに診療に駆けつけることが可能な状況ばかりではないことから、看護師に対し医師に相談する内容の質の向上（要求の明確化）が必要と認識していた。
- 10年近くにわたってOn the Job Training(OJT)でフィジカルアセスメントに基づき対処を考えることができるような教育を行ってきたが、特定行為研修を知り修了者を育成することを決意。

準備・研修開始

2020年

研修受講開始時期

- 看護部長を1人目の修了者として育成することにより、看護部全体の理解を得やすくした。その後も施設や訪問看護等の地域看護を経験している看護師に順次受講できるように進めていった。
- 研修中に医師との学習の場を設け、連携しやすい環境を作った。
- 手順書作成は医師と修了者が共通理解できるように協働して作成した。

1期生の修了

2020年下期

修了者の活動開始時期

- 修了者と研修受講者（予定含む）を全職員で情報共有し、認知度の向上を図った。
- 施設内にいる特定行為研修修了者が誰であるのか、何ができるのか、を医師や多職種にも分かりやすく周知して活動を促した。

活動の展開

2023年～

- 看多機や療養通所介護への特定行為研修修了者の配置を進めていくことを検討中。
- 修了者が相互に相談しやすいような仕組み作りを検討している。
- 地域で特定行為研修修了者同士の情報交換ができるような活動を検討している。

事例 12

修了者である訪問看護師と共に在宅医療の体制を強化し、医師の業務の質と患者満足が向上

社会医療法人 恒貴会 大和クリニック
訪問看護ステーション愛美園（茨城県桜川市）

訪問看護
在宅診療

病床数	無（無床診療所） 訪問診療患者約140名/月
医師数	常勤4名、非常勤2名
連携している訪問看護事業所に所属する特定行為研修修了者数	2名

本事例のポイント

- ✓ 同法人の訪問看護事業所に所属する看護師の特定行為研修が円滑に進むよう、相談や助言を通して支援を行った。修了後の特定行為の実施を見据えて、実習中より協力した。
- ✓ 修了者が特定行為を実施することにより、訪問診療医は診療の様々な場面で余裕を持てるようになり、患者満足に繋がっている。

修了者の活動を推進した医師をご紹介

木村医師（右）と修了者

修了者との協働の様子

木村洋輔 医師　(院長)

- ✓ 特定行為研修の実習の受け入れから訪問看護師である修了者との協働まで総合的にサポートし、地域での活動を推進している。

木村医師の取組

- ✓ 修了者と実際に活動する医療機関の医師として、演習・実習の助言や手順書雛形の作成等をサポートすることで、特定行為研修を受講する研修生との信頼関係が深まった。
- ✓ 修了者が特定行為を実践する患者と家族への説明を行う等、修了者の活動支援を行った。
- ✓ 修了者を段階的にフォローアップし、修了者の知識・技術の向上に繋がった。

修了者と協働した所感

研修中から関わることで、高度な学びを経て自分で考えて行動できる修了者に信頼があった。修了者を地域で育てながらチーム医療の一端を担ってもらおうと自然に感じられた。

修了者がいる効果

■ 地域住民を診るチームの医療提供体制が強化された

安定した医療提供体制の確保

- ✓ 将来的に医師不足と通院困難な患者の増加が見込まれる地域において、連携する同法人の訪問看護事業所の看護師が修了者になることで安定した医療を提供できるチーム体制になった。
- ✓ 訪問看護師が臨床推論などを学ぶことで、特定行為とは直接関連のない患者の体調変化に対しても、適切な情報収集と相談ができるようになった。

■ 医師・患者の満足が向上

- ✓ 修了者の活動によって医師は患者家族（介護者）の状況確認や内服薬の調整、アドバンスケアプランニング等に必要な時間を確保することができ、診療の質が向上することで医師・患者の満足が向上した。

修了者へのタスク・シフト／シェア内容

■ **在宅・慢性期領域パッケージの行為を修了者が実施**

- 修了者数を考慮し、日中の定期的な気管カニューレや膀胱ろう・胃ろうの交換を中心に依頼している。夜間帯等、通常の診療時間外に起きたトラブルも、修了者の力量に合わせて、直接指示での交換等で適宜対応している。
- 褥瘡又は創傷治療において血流のない壊死組織の除去をタイムリーに実践でき、創部の状態に応じて被覆材や外用薬の選定を実施している。

修了者が行う処置・内容

- 気管カニューレの交換
- 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換
- 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去

／等

取組を進める上でのポイント

■ **日頃から連携している医師の立場で研修中から関わり、修了後の活動を具体的にイメージして、 準備をすすめる。**

- 実習に現場で協働する医師の立場で関わることで、研修で学ぶ内容を知り特定行為研修制度を理解する。
- 訪問診療をしている患者に特定行為研修について周知することで、修了者が研修修了後も活動しやすい関係性を構築する。
- 連携している同法人の訪問看護事業所の看護師が研修を受講している時から、自分達に合う手順書の作成を行う。

■ **修了者の活動をバックアップしている。**

- 修了者の技術を確認し、特定行為が必要な患者の選定や患者への説明を支援しており、修了者がスムーズに活動を開始できるようにバックアップする。

修了者と協働する仕組みを構築した過程

背景

2015年

- 長年の地域における訪問診療と訪問看護の活動で、気管カニューレや膀胱ろうカテーテルの定期交換が必要な患者が増えていた。医療依存度の高い患者も自宅での生活ができるよう支援を強化する必要性を感じていた。
- 同法人の訪問看護事業所の看護師が特定行為研修を受講するにあたり、手順書を発行する医療機関として研修を支援することになる。

研修受講中のサポート

2015年
10月

日頃から連携している医師として、研修受講をサポート

- 主に在宅向けの「瘻孔管理」「褥瘡管理」についてOSCEへの助言や、e-learningでの疑問点の解消など通して支援する。
- 手順書の雛形を特定行為研修受講者とともに検討する。

研修修了

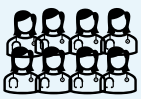
2016年
10月

実際の患者への円滑な導入に向けて支援

- ✓ 特定行為に当てはまる患者の選定
- ✓ 個別の手順書の作成
- ✓ 患者・家族への説明

活動の展開

2017年
10月～



指導、育成しながらタスクシフトへ

- はじめは医師の手技を見る、医師の介助で行う、医師の見守りで独力で行う、の三段階を行い、その後も段階的に指導、育成しながら特定行為を依頼する。